



これは便利！iOSアプリ活用術

鈴江病院 脳神経外科 七條 文雄



<1> 添付文書 Pro

はじめに

『アイパッド、アプリなければ、ただの板(詠み人知らず)』の川柳で代表されるように、『iPad や iPhone を如何に活用するか?』ということは、言い換えると『アプリ (App) を如何に活用するか?』ということになる。したがって、今回よりこのコーナーでは秀逸な App を厳選し、その具体的な使用方法を紹介していきたい。今回は、その第1弾として、iPad や iPhone だけでなく、Android 系のスマホやタブレットでも使用でき、さらには Web 版も公開されている【添付文書 Pro】(株式会社 Qlife) を紹介する。

表示しているのので、QR コードリーダーから App をダウンロードすることも可能である。



【図2：App の初期導入手順】



【図1:添付文書 Pro の QR コード(二次元バーコード)】

1. App のダウンロード

App は、インターネットを介して『添付文書 Pro』で検索すれば、iTunes もしくは、Google play からダウンロード可能である。図1には QR コード (二次元バーコード) も

2. 会員登録

本 App は、医師や薬剤師などの医療従事者向けの設計となっているために、医療者認証システム「QLifeMEMBER ID」への新規会員登録(無料)が必要となる(図2)。

3. フルアップデート実行

システム自体のプログラムの容量は6.5 MB 程度であるが、医薬品データの容量は約 1.9GB あり、ダウンロードには高速の WiFi 環境を用いても5~15分程度を要する(図2)。

4. 本 App の特徴

- 1) 無料。
- 2) iOS 版、Android 版、Web 版があり、臨機応変に利用可能。
- 3) オフラインで動作が可能。3.11震災時には、IT 機器のほとんどが用をなさな



【図3:医薬品の検索画面:二文字目から検索開始】

かったことより、本 App では稼働に必要な全てのデータを App 内に保持している。そのために上記の様に大容量のデータファイルとなっている。

- 4) 医薬品の検索は、二文字入力目から自動的に検索が開始される (図 3)。
- 5) 約 2 万種を超える医薬品 (内服薬、注射薬、ワクチンなど) の実物写真と添付文書が収録されている (図 4)。



【図4:医薬品の実物写真表示や先発薬と後発薬の比較リスト表示】



【図5:薬価、副作用、禁忌、薬品間の相互作用などの表示例】

- 6) 薬価や副作用、禁忌、併用薬との相互作用、先発薬と後発薬を併せた表示などが、タップで容易に表示される (図4、図5)。



【図6:高コレステロール血症の全国処方ランキング表示例】

- 7) 病名別全国処方ランキング表示が可能。(図 6)
- 8) 適応症からの検索が可能。(図 7)



【図7:高コレステロール血症の適応症からの検索例】

- 9) 疾患別に、効能又は効果がある薬品と、禁忌薬品のリストアップが可能。(図 8)
- 10) 必要な場合は、ネットを介して、実際の添付文書の閲覧や、医薬品インタビューフォームを閲覧することが可能。



【図8:緑内障の効能又は効果薬と禁忌薬のリスト表示例】